

Library News



京教図書館 News

2007

7

私のすすめるこの1冊・・・(井上えり子准教授)家政科

真鍋昌平「闇金ウシジマくん」1～8巻

コミックであるが教員志望の学生にぜひ薦めたい本である。10日で5割という法外の金利を貪る闇金業者（貸金業としての登録をしていない業者あるいは登録していても出資法の制限を超える金利を課し人権を無視した取り立てを行う業者）丑嶋。この物語の主人公であると言いたいが、本当の主人公は彼に金を借りにくる人々である。パチンコ依存症の主婦、服や旅行の費用のために借金を重ねるOL。悪人ではないが、みえっぱりで依存心が強くしかも小心者。一見どこにでもいそうな彼女たちは闇金に手を出したばかりに破滅してゆく。その様がリアルに描かれる。

目を覆いたくなるような凄惨な描写が多用されおり、人によっては読了後、気分が悪くなるかもしれない。それでも一読を薦めるのは、「下層」の人々の現実がリアルな筆致で描かれているからである。闇金に手を出す者は誰からも金を借りることができない人たちである。家族や恋人や友人がいるにもかかわらず誰にも頼めない。彼らにとって唯一の手段が闇金なのである。その結果、売春や覚せい剤といった手段で骨の髄まで搾り取られ、まともな人間関係を全て断ち切れ、二度と這い上がれない状況に追い込まれる。

数年前、神戸の旧繁華街、新開地の地下道で60代と70代の女性が売春で逮捕されたことがあった。先日、件の地下道を歩いていたら売春婦と思しき初老の女性が2人、片隅に立っていた。「闇金ウシジマくん」の世界を垣間見た思いがした。この豊かな日本でなぜ高齢者が体を売らなければ生きていけないのか、矛盾だらけの現実を目の当たりにして一瞬思考がストップし、そしてウシジマの台詞を思い出したのである。

「強い国は弱い国から奪い、資本家は労働者から奪い、政治家は国民から奪う。世の中は奪い合いだ。・・・奪（と）るか奪（と）られるかなら、俺は奪（と）る方を選ぶ」。

奪われた人々の末路が目の前の光景なのか。だとすれば古典的な弱肉強食の社会そのものではないか。ウシジマ自身もヤクザと結びついた金主（きんしゅ）から搾取される人間である。弱い人間がより弱い人間を搾取する構造の中でより「下層」の人々が沈んでゆく、ウシジマの世界は深い闇に覆われている。そして、闇は現実世界に繋がっているのである。

教師は様々な人々に会おう仕事である。いつか、あなたもウシジマくんの世界で生きる人々と会おうかもしれない。

『闇金ウシジマくん』真鍋昌平 1巻 2004年7月 (ISBN-13:9784091873415)

小学館 ビッグコミックス

購入手続き中

■ 図書館からのニュース

1. 7月の論文検索・収集法講座

雑誌論文のデータベースCiNiiを使って、論文の検索から入手方法までを、パソコンを使いながらの実習形式で説明します。レポート作成から卒業論文まで、準備の第一歩に参加してみませんか。

事前申込は不要です。直接図書館カウンターへお越し下さい。

日時	7月 3日(火) 10:30-11:00	7月 3日(火) 13:30-14:00
	7月 6日(金) 16:30-17:00	7月 11日(水) 13:30-14:00
	7月 18日(水) 13:30-14:00	

2. 夏季休業にともなう長期貸出について

下記のとおり長期貸出をしますので、ご利用ください。

対 象	院生・教職員	学部生
貸出期間	7月2日(月)～9月4日(火)	7月17日(火)～9月19日(水)
貸出冊数	10冊	5冊
返却期日	10月4日(木)	

* 視聴覚資料は除きます。

* 長期貸出図書については、貸出の延長はできません。

一度返却してから翌日以降貸出の手続きをとってください。

* 一般利用者の方の長期貸出はできません。

3. 除却図書の譲渡について

図書館では、館内の狭隘化のため書庫内の重複等図書の除却を行っております。図書館では、不用としたものですが、十分使用に耐えうるものも存在しております。有効活用を図るため、希望者に譲渡をいたします。

◆対象：本学教職員・学生

◇日時：7月中旬（具体的な日時につきましては、館内掲示及びホームページにてお知らせします。）

4. 9月から施工される校舎耐震改修工事に関連する利用制限について

(1) 「コレクションの森」室の閲覧制限について

耐震工事に伴い、研究室貸出中の図書等のうち約1/3が図書館に返却されることになりました。大量の返却本の保管場所を確保するため、一部閲覧スペースが制限されます。順次、データ整理を行い館内に配架することにしてはいますが、整理が終わるまで、館内の数カ所に分散して保管します。

とくに北館2階「コレクションの森」は、返却本保管のために閉鎖しますので、配架してあるGP関係資料は、データ整理が終了するまで、西隣の「文庫閲覧室」に移転します。資料の利用（閲覧・貸出等）は、従来通りですのでどうぞご利用ください。

(2) 「視聴覚室」の利用制限について

耐震改修工事期間中は、教室・ゼミ室等が不足しますので、「視聴覚室」も教室・ゼミ室等として転用します。授業・ゼミのない時間は利用可能ですが、通常の利用よりも、授業等が優先されます。

以上、ご協力方よろしくお願いいたします。

■ 論のくちび理のむすび・・・(内田利広准教授)教育学科

家族関係と児童の抑うつ・不安感に関する研究 －子どもの認知する家族関係－

内田利広・藤森崇志：京都教育大学紀要 NO.110:P93-110,2007

学校教育において、不登校やいじめ、非行の問題など多くの課題があります。特に最近では、児童期におけるうつ病の可能性も指摘されています。

そのような子どもの抑うつや不安の背景として色々なことが考えられますが、その要因のひとつとして、家族関係による影響が言われています。子どもたちが生まれてからこれまで育ってきた家庭の環境は、子どもの成長にとっては、重要な意味を持つのは当然のことと思われます。本論では、その家族関係を、父親や母親との距離感によって、「3者均等接近型」「3者均等中距離型」「父子接近型」「母子接近型」「夫婦接近型」のタイプに分けて調べています。このような父親、母親との距離感は、実際にどうかということより子どもにどう感じられているかということが大切です。それは、いくら父親や母親が、仲がよく親しく接していると思っていっても、子ども自身にそのように感じられなければ意味がないのです。つまり「子どもの認知する家族関係」が重要ということです。これは、教育やカウンセリングにおいても同じであり、教師やカウンセラーが子どもとの信頼関係はうまく取れていると感じていても、実際に子どもがそのように感じていることが重要であり、子どもの認知の方が、子どもへの影響という意味では信頼できるのです。

さて、家族関係と抑うつ、不安については、いずれも3者均等近接型が最も低くなっており、父親・母親・子どもの3者の距離が同じぐらいで近いほうが抑うつ感や不安感は低くなるということであった。また、不思議なことに母子接近型は、抑うつや不安が高くなっており、特に不安に関しては、すべてのタイプの中で、最も高い得点を示していた。これはどのように考えたらいいのでしょうか。いろいろな解釈ができると思いますが、やはり家族において、父親がぼつんと離れて、母子の距離が近くなりすぎるとするのは、あまりいい状態ではなく、子どもの心理的健康においてもマイナスなのではと考えられます。

この結果を見ると、やはり家族における父親の存在意義が重要なのかなと思えてきます。関心のある人は是非一度読んでみてください。

全文は図書館HP「京都教育大学紀要」で、ご覧いただけます。

■ 図書館開館スケジュール

(通 常)

開館時間 : 9:00

閉館時間 : 21:00

一部期間は 17:00 に閉館します

下記カレンダー「~17:00」と記載

7

日	SUN	月	TUE	水	木	金	土	SAT
1	2	3	4	5	6	7		
			休館					~17:00
8	9	10	11	12	13	14		
休館								~17:00
15	16	17	18	19	20	21		
休館	休館							~17:00
22	23	24	25	26	27	28		
休館								~17:00
29	30	31						
休館		~17:00						

8

日	SUN	月	TUE	水	木	金	土	SAT
				1	2	3	4	
				休館	~17:00	~17:30	休館	
5	6	7	8	9	10	11		
休館	~17:00	~17:00	~17:00	~17:00	~17:30	休館		
12	13	14	15	16	17	18		
休館	休館	~17:00	~17:00	~17:00	~17:30	休館		
19	20	21	22	23	24	25		
休館	~17:00	~17:00	~17:00	~17:00	~17:30	休館		
26	27	28	29	30	31			
休館	~17:00	~17:00	~17:00	~17:00	~17:30			

7月4日(水)は館内整理のため休館します
 7月16日(月)は祝日のため休館します
 7月31日から9月末日までは、夏季休業のため、
 17時で閉館となります

8月1日(水)は館内整理のため休館します
 8月13日(月)は一斉閉庁のため休館します。

京教図書館 News No. 82 2007年7月号

編集発行：京都教育大学附属図書館

発行日：平成19年7月1日

内容に関するお問い合わせ先：

附属図書館（内線8176）



京都教育大学